

イデックスオイルレポート ~For a month~

2021年2月1日作成 (株)新出光

【月次概況】

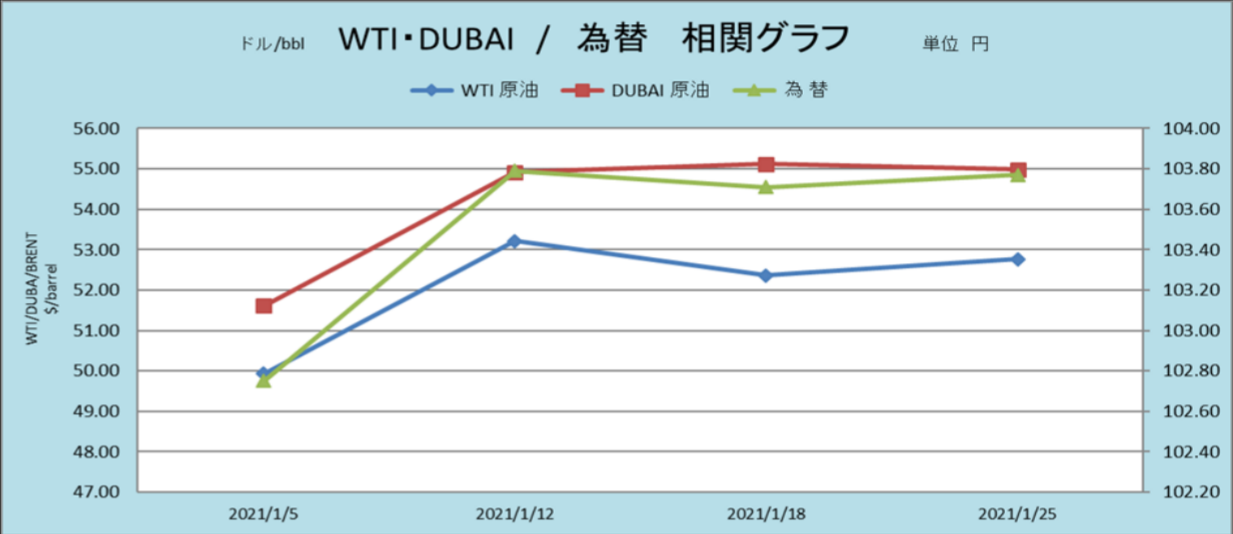
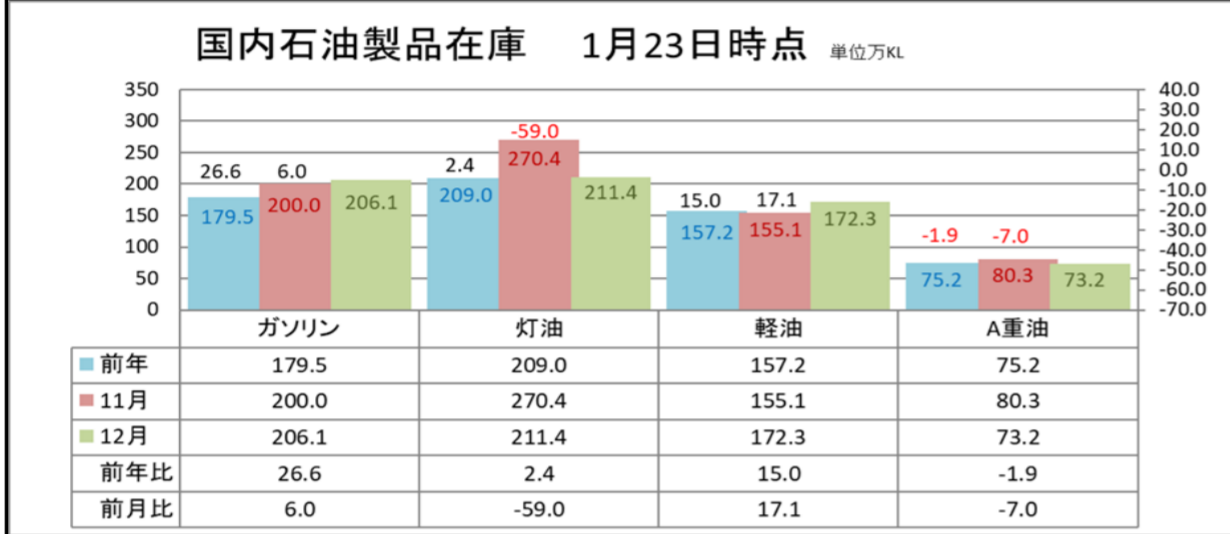
●第2週、週末1/8のWTI原油は、先週比3.72ドル高の52.24ドルとなりました。サウジアラビアが、5日、2~3月に自主的に日量100万バレルの追加減産に乗り出す姿勢を表明以降、需給の不均衡をめぐる警戒感が後退し原油が買われました。また6日の米エネルギー情報局(EIA)週報で、原油在庫が前週比800万バレル減と、市場予想の210万バレル減を大幅に上回る取り崩しとなり原油が買われました。

●第3週、週末1/15のWTI原油は、先週比0.12ドル高の52.36ドルとなりました。中国税関総署が、14日発表した原油輸入は、前年比7.3%増の5億4239万トンとなり過去最高を記録したため市場では需給緩和懸念が後退しました。また13日公表の米エネルギー情報局(EIA)週報で最新週の米原油在庫が前週比320万バレル減と市場予想230万バレル減を上回る取り崩しとなり支援要因となりました。ただ中国では年明け以降、北京近郊の河北省などで新型コロナウイルスの感染が再拡大しつつあり北部を中心に都市封鎖(ロックダウン)を実施する地域が相次いでいます。他の主要国経済がコロナ禍で停滞する中、中国が世界のエネルギー需要を牽引してきただけに需給均衡化への期待が後退し軟調に推移しました。一方米国では、バイデン次期大統領が14日夕に1兆9000億ドル規模の追加経済対策案を発表しましたが、新規失業保険申請が昨年8月以来の高水準を記録したほか、昨年12月の小売売上高が3か月連続でマイナスになるなど、足元では経済指標の悪化が目立っており短期的な需要鈍化は避けられないとの見方から相場は、軟調に推移しました。

●第4週、週末1/22のWTI原油は、先週比0.09ドル安の52.27ドルとなりました。20日のバイデン次期大統領就任式までは、大規模な財政出動への期待が広がる中、米株価は上昇し原油も買われました。しかしその後、中国で新型コロナウイルスの感染が再拡大しており石油輸入・消費大国である同国の経済活動抑制への懸念が原油相場を圧迫しました。また米エネルギー情報局(EIA)が22日午前に発表した週報では原油在庫は前週比440万バレル増と市場予想の120万バレル減に反して大幅な積み増しになったことも相場を下押ししました。さらに米株相場が軟調に推移する中、株と並んでリスク資産とされる原油に売りが波及し軟調に推移しました。

●第5週、1/29のWTI原油は、先週比ドル0.07ドル安の52.20ドルとなりました。米エネルギー情報局(EIA)が27日に公表した週報で米原油在庫が市場予想の小幅増に反して990万バレル減と大規模な取り崩しとなったことや28日朝に発表された2020年10~12月期の米実質GDP(国内総生産)速報値が市場予想に近い伸びとなり米週間新規失業保険申請件数も2週連続で改善したことにより株や原油先物などリスク資産への投資意欲が回復し上昇しました。しかしその後は、買いが徐々に細り下落しました。欧州で英アストラゼネカや米ファイザーが開発した新型コロナワクチンの供給が遅れていることや、コロナ対策で規制が強化されている中国で春節(旧正月)の人の移動が減少しており、エネルギー需要に対する減退懸念が根強くなっています。

1月平均	WTI原油	52.10ドル	前月比	5.03ドル	為替 1ドル	104.69円	前月差	△0.15
------	-------	---------	-----	--------	--------	---------	-----	-------



ENEOS	日付		変動幅	出光昭和シェル	変動幅
	12/24~1/6	1/7~1/13			
	1/14~1/20	1/21~1/27	±0		

【単位:円/KL】

メニュー価格推移 平水湾内T/S持ち届け (サイト60日)	0.5HPP		ENEOS LS船用燃料油基準価格	
	2020年10-12月C重油決定価格	40,920	42,920	【40,920(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	2021年1-3月C重油仮価格	46,980	48,980	【46,980(メニュー)+2,000(プレミアム)】
	2021年1-3月C重油決定価格			【(メニュー)+2,000(プレミアム)】

【単位:円/KL】

内航燃料油価格推移	適合油価格		A重油	
	2020年10-12月(決定価格)	48,000		51,700
	2021年1-3月(仮価格)	53,500		
	2021年1-3月(決定価格)			

CIF価格推移	年/月	9桁速報	原油CIF価格	通関CIF	為替レート	原油CIF価格
			円/KL	ドル/bbl	円/ドル	前月比
	20/12	9桁速報	29,123	44.46	104.13	1,286
	21/1	最終予測	32,952	50.41	103.91	3,829
	21/2	展望	36,708	56.11	104.00	3,756
21/3	展望	37,979	57.78	104.50	1,271	

【1月市況】

●第2週の元売価格変動幅は、「+0.5」の値上げでした。原油コストが見えにくい状況でしたが、改定後は先高期待が広がりおおよそ値上げが浸透しました。月間リンクの仕入れ玉も様子見や見積り非表示など対応が様々でしたので年始の市況は昨年末に比べ「1.0~1.5円」程度値上げが進んでいる状況です。

●第3週の元売価格変動幅は、ENEOS「+1.5円」、出光シェル「+2.0円」の値上げ改定となり元売り二社で改定幅が異なりました。コスモ石油の仕切り改定のズレを利用した販売が広く安値として残り、特にガソリンは上昇幅を抑えた形でした。2日に分けて市況は上昇し、おおよそ改定幅程度市況が上がっています。

●第4週の元売価格変動幅は、ENEOS「+1.0円」、出光シェル「+0.5円」の値上げ改定となり元売り二社で改定幅が異なりました。二週分で元売りの改定のズレは調整された形です。ENEOSの改定が「+1.5」と予測していたディーラーが多く、上げ幅が予測よりも小幅だったために市況の上昇が抑えられる形となりました。また月間リンクの仕入れ玉の消化売りが本格的に始まり、反対に値下がりがした油種も見受けられました。

●第5週の元売価格変動幅は、「±0」でした。サウジの調整金は加味されず、次週に持ち越したようです。市況としては、元売り仕切り改定に関係なく、月間市況連動玉の枠消化による売り攻勢が続きました。タームで仕入れているディーラーは、採算度外視で赤字でも枠の消化を優先する動きが各地でみられ、市況の下げが止まらない状況に陥りました。

【2月価格変動要因】

●需要面:IEA月報では、2021年原油需要増加量を5.5MBDと前回比▲280KBDと引き下げを発表しました。欧米のみならず中国での新型コロナ感染拡大から需要見通しはやや悪化しており需要面は弱く下げ要因です。

●供給面:バイデン大統領による新規石油ガス鉱区のリース権、掘削許可の暫定停止、国有地の原油鉱区借用件売却一時停止(同国生産量の10%に相当)に加え、IEA月次レポートにおけるシェールオイル減産見込みから米国の原油生産量は暫く増えないと見られており供給面では、弱く上げ要因です。

●リスク資産(金融市場):株式市場は大規模追加経済対策への期待からS&P・ナスダックが過去最高値更新と新政権について歓迎ムードです。イエレン新財務長官は「弱いドル目指さない」と貿易重視の前政権スタンスと異なる姿勢を示したため、為替動向には注意が必要となりやや上げ要因です。

●地政学:バイデン政権誕生により外交姿勢が大きく変化する可能性はあるが、現時点では対イラン制裁緩和は非現実的です。対中についても強硬姿勢を示しており注視が必要であり地政学的には、上げ要因です。

〈価格見通し〉

(単位:US/bbl)

	Brent	WTI
High	60	57
Average	55	52
Low	50	47

日付	国	2月経済指標カレンダー	日付	国	2月経済指標カレンダー
1	米	1月ISM製造業景況指数	15	日	10-12月期 四半期実質国内総生産(GDP、速報値)
2	欧	10-12月期 四半期域内総生産(GDP、速報値)	16	欧	10-12月期 四半期域内総生産(GDP、改定値)
3	欧	1月消費者物価指数(HICP、速報値)	17	米	1月小売売上高
3	米	1月ADP雇用統計(前月比)	17	米	米連邦公開市場委員会(FOMC)議事要旨
3	米	1月ISM非製造業景況指数	18	欧	1月消費者物価指数(HICP、改定値)
5	米	1月非農業部門雇用者数変化	19	日	1月全国消費者物価指数(CPI)
5	米	1月失業率	25	米	10-12月期 四半期実質国内総生産(GDP、改定値)
5	米	1月平均時給	26	米	1月個人消費支出(PCEデフレター)
10	米	1月消費者物価指数(CPI)			

当レポートは、情報提供のみを目的としておりますのでお取引の判断については、御自身で行って頂くようお願い致します。